

史学委員会 IUHPST 分科会（第 25 期・第 4 回）議事要旨

1. 会議名 史学委員会 IUHPST 分科会（第 25 期・第 4 回）
2. 日 時 令和 3 年 10 月 30 日（土）12：10～13：20
3. 開催方法 オンライン開催
4. 出席者 木本忠昭〈委員長〉、隠岐さや香、岡田光宏、河村豊、佐野正博、橋本毅彦、兵藤友博、溝口元

5. 議 題

- （1）前回議事要旨を確認した。
- （2）前回分科会以降の活動状況について：前回分科会（3 月）以後の活動として委員長から、

第一に、プラハ国際会議の結果（役員選挙で橋本委員が第一副会長に当選したこと、次回大会はダニーデンに決定したこと、参加者の手続きで問題があったこと、gender/cultural diversity 役員の導入、オンライン会議の長所と問題点）等が報告された。一部はすでに 8 月 18 日に委員長から委員にメールで報告済みであったが、この報告と合わせて承認した。

第二に、8 月 2、3 日の国際ユニオン加盟関係分科会委員長会議および ISC 役員選挙にあたって日本学術会議会長からの推薦依頼文を IUHPST/DHST 会長に伝え、支援依頼を依頼したこと、

第三に、上記会議で日本学術会議が CIPSH と連携を深める方策を検討すべきことを提言したこと、

第四に、加入国際学術団体活動調査書（IUHPST/DHST 及び IUHPST/DLMPST ずつそれぞれ 3 種類計 6 通）を 9 月～10 月にかけて橋本、岡田、木本で作成したこと、これには相当の労力を要したこと、

第五に、10 月 18 日日本学術会議の改革、特に「提言」の見直しについて zoom 会議が開催（梶田会長、菱田副会長参加）され、委員長が参加、提案されている「提言活動の見直し」を再検討することを強く要請したこと、等が報告され、承認された。

（3）CIPSH との連携強化

委員長から、日本学術会議は現状では人文哲学分野での国際組織 CIPSH とは組織的な連携が持てておらず、IUHPST の CIPSH との連携や学会（学術会議ではない）からの CIPSH 参加という間接的な連携にとどまっており、当該分野での国際活動の連携が十分に行えていないという現状が紹介され、CIPSH との連携を図る方策を検討するように求める要望書を会長あてに提出することとした。案文を承認し、さらに関係者の意見を聞き、また文章をブラッシュアップして提出することとした。

（4）第 26 回国際会議（プラハ）での諸問題への対処

①国際会議報告集作成

現在、個別報告が集まり、木本が編集集中であることが報告された。完成すれば普及を図ることとした。

②プラハ大会での諸問題への対処

プラハ国際大会の準備過程での諸問題について、日本で見られた問題として次回大会での改善を希望する要望を文書でまとめ、IUHPST/DHST 会長に提出することとした（担当橋本委員）。

③DHST 選挙規定の検討

本件は、審議時間不足のため次回検討することとした。

(5) 提言等の在り方の見直しについて

現在の学術会議の改革として示されている「提言活動の見直し」に対して、これは説明とは逆に分科会活動の活発化を図るものではなく、逆に学術会議の活動を弱体化させるものであり、この見直しをやめるべきとの要望書を提出することとした。なお、改革案の説明や検討は学術会議内部で十分に行われているようには見え難く、この点での改善も合わせて要望することとした。本件は、要望書が作成されれば提出することとした。